

道

2019年2月1日
(第40号)

小田川



遠い昔の断片的な思い出。▼夜、玄関のガラス戸が壊される音、酔った父に母が暴力を受け泣き叫ぶ声、布団をかぶって震える僕。▼幼い妹の手を引いて歩く。ようやく着いた母の実家に母はいない。深夜、酔った父に連れ戻される。▼二度目の「脱出」、今度は母がいた。母の実家で何か月過ごしたんだろう。小学校まで遠かった。下校途中に通りかかった高校生の兄ちゃん。▼家が前にタクシーが止まりバザっという音がして遠ざかる。そこに僕たちの新しい服が置いてあった。少しして、母と子は父の家に戻る。▼父は断酒しようと頑張っていた。神棚の一升瓶はイグサ収穫を終えた後の褒美にと供えてあったもの。真夏のイグサ農作業はほんとうに辛い。待ちきれなかった。その酒が父の命を奪う。▼池に裸の父が浮いていた。何も感じなかった。部落の人が船で引き上げているのを横目に小学校への道を急いだ。葬儀で母が泣いていた。その気持ちからなかった。▼歳月が流れ、担任していた生徒が白血病で亡くなったときの葬儀で、参列する生徒が残らず泣いているのに、僕だけ涙が出ない。僕は父の死後、泣いたことがないのだ。何か欠けている。▼どこか歪な自分。この自分をこれからも生きていく。これが、僕なので。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林道也

遠田
椋の木

